

教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価報告書

～令和 5 年度事務実施事業～

二戸市教育委員会

令和 6 年第 8 回二戸市教育委員会定例会（令和 6 年 8 月 22 日議決）

目 次

第1 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

1 点検・評価制度の概要	3
2 点検・評価の実施	
（1）点検・評価する内容	3
（2）議会への報告	3
（3）市民への公表	3

第2 教育委員会の組織と活動

1 二戸市教育委員会の組織	4
2 教育委員会の活動	
（1）会議の開催回数	4
（2）議決の状況	4
（3）会議等開催内容	5～6
（4）総合教育会議の開催内容	7
（5）教育委員会の会議以外の活動状況	7

第3 二戸市教育振興基本計画に基づき令和5年度に実施した主な事業の取組実績

1 点検・評価制度の基準	8
2 二戸市教育振興基本計画の施策体系	8～9
3 事業の点検・評価	10～33

第1 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

1 点検・評価制度の概要

地方教育行政の組織及び運営に関する法律には、教育委員会はその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが規定されています。

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の実施

二戸市教育委員会では、令和3年2月に策定した二戸市教育振興基本計画（令和3年度～令和7年度）に掲載されている主要事業の施策区分別に、令和5年度における取組状況について、点検及び評価を行いました。

評価は、それぞれが分野の目的に沿った取り組みができているかどうかについて、担当課による自己評価（一次評価）を行い、その内容について学識経験を有する者の知見を活用（二次評価）して行います。

（1）点検・評価する内容

- ①令和5年度二戸市教育委員会の運営状況（活動内容）
- ②二戸市教育振興基本計画に基づき令和5年度に実施した主な事業の取組実績

（2）議会への報告

二戸市議会9月定例会へ報告書を提出します。

（3）市民への公表

市民への公表は、市議会へ報告後、教育委員会ホームページへの掲載により行います。

【二戸市教育行政に関する点検及び評価等検証委員会委員】（敬称略、順不同）

氏 名	委 員 の 区 分
佐 藤 洋 子	二 戸 市 学 校 運 営 協 議 会 委 員
荒 川 優 子	二 戸 市 社 会 教 育 委 員
小保内 威 彦	二 戸 市 文 化 財 調 査 委 員
新 毛 公 生	教育全般に学識経験を有する者

第2 教育委員会の組織と活動

1 二戸市教育委員会の組織

教育委員会は、二戸市立の小学校・中学校、図書館などの教育機関の設置、管理及び学校教育、社会教育、文化、スポーツ等に関する事務を担当する行政機関であり、市長が市議会の同意を得て任命した、教育長と4名の委員で構成されています。

教育長の任期は3年、委員の任期は4年で、再任も認められています。

教育長は、会務を総理し、教育委員会を代表します。また、教育委員会の権限に属する事務を処理するために、教育委員会に事務局が置かれています。

【二戸市教育委員会教育長及び委員】（令和6年3月31日現在）

職 名	氏 名	職 歴 等
教育長	加 藤 暢 之	元 小 学 校 長
委員（教育長職務代理者）	槻 舘 行 男	元 小 学 校 長
委員	佐々木 千 穂	自 営 業
委員	荒 谷 直 大	農 業
委員	阿 部 歩	自 営 業

2 教育委員会の活動

教育行政の基本的な方針の決定や、諸課題の解決等の重要案件について審議し、諸事項についての意見・情報交換を行うため、毎月教育委員会定例会を開催するとともに、急を要する案件を処理するため、教育委員会臨時会を開催し、教育行政の適正な運営に努めました。

また、市長と教育委員会が教育施策の方向性を共有し、一致して執行に当たるための協議・調整の場として、総合教育会議を開催しています。

（1）会議の開催回数

■ 定例会	12 回
■ 臨時会	1 回
総 計	13 回

（2）議決の状況

■ 教育委員会規則・規程等の制定・改廃	7 件
■ 教育機関の長・その他機関等の長の人事	4 件
■ 協議会・審議会委員等の任命・委嘱	12 件
■ 市議会提出議案への同意	6 件

■ 教科書採択	2 件
■ その他	5 件
総 計	36 件

(3) 会議等開催内容

会議名	月日	内 容
第4回 定例会	4. 27	一般報告 議案第1号 二戸市社会教育委員の委嘱について 議案第2号 二戸市スポーツ推進審議会委員の委嘱について 議案第3号 二戸市シビックセンター運営協議会委員の解嘱及び委嘱について 議案第4号 二戸市立図書館協議会委員の委嘱について 議案第5号 二戸市文化財調査委員の委嘱について 議案第6号 二戸市歴史民俗資料館運営委員の委嘱について 議案第7号 二戸市浄法寺文化交流センター運営委員会委員の解嘱及び委嘱について 議案第8号 臨時専決処理に関し承認を求めることについて 二戸市立学校職員の勤務時間等に関する規則の一部を改正する規則 議案第9号 二戸市新入学児童学用品購入支援交付金交付要綱 議案第10号 二戸市いわて国体記念スポーツ交流事業補助金交付要綱の一部を改正する告示 報告第1号 二戸市教育委員会の後援・共催等について
第5回 定例会	5. 23	一般報告 議案第1号 二戸市社会教育委員の委嘱について 議案第2号 二戸市立図書館協議会委員の委嘱について 議案第3号 二戸市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について 議案第4号 臨時専決処理に関し承認を求めることについて 市議会臨時会提出議案への同意について 令和4年度二戸市一般会計補正予算（第12号）（うち教育委員会分） 議案第5号 市議会定例会提出議案への同意について 令和5年度二戸市一般会計補正予算（第3号）（うち教育委員会分） 報告第1号 二戸市教育委員会の後援・共催等について
第6回 定例会	6. 26	一般報告 議案第1号 二戸市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について 報告第1号 二戸市教育委員会の後援・共催等について
第7回 定例会	7. 25	一般報告 議案第1号 二戸市シビックセンター運営協議会委員の委嘱について 議案第2号 令和6年度使用小学校教科用図書の採択について 議案第3号 令和6年度使用中学校教科用図書の採択について 議案第4号 臨時専決処理に関し承認を求めることについて 二戸市教育委員会電子文書取扱規程の一部を改正する訓令 報告第1号 二戸市教育委員会の後援・共催等について
第8回 定例会	8. 21	一般報告 議案第1号 市議会定例会提出議案への同意について 令和5年度二戸市一般会計補正予算（第4号）（うち教育委員会分） 議案第2号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について 報告第1号 二戸市教育委員会の後援・共催等について

会議名	月日	内 容
第 9 回 定例会	9. 27	一般報告 報告第 1 号 二戸市教育委員会の後援・共催等について
第 10 回 定例会	10. 31	一般報告 報告第 1 号 二戸市教育委員会の後援・共催等について
第 11 回 定例会	11. 22	一般報告 議案第 1 号 市議会定例会提出議案への同意について 令和 5 年度二戸市一般会計補正予算（第 7 号）（うち教育委員会分） 報告第 1 号 二戸市教育委員会の後援・共催等について
第 12 回 定例会	12. 26	一般報告 議案第 1 号 臨時専決処理に関し承認を求めることについて 市議会定例会提出議案への同意について 令和 5 年度二戸市一般会計補正予算（第 8 号）（うち教育委員会分） 議案第 2 号 二戸市教育委員会表彰の受賞者について 議案第 3 号 市指定有形文化財の指定の解除について 報告第 1 号 二戸市教育委員会の後援・共催等について
第 1 回 定例会	1. 29	一般報告 報告第 1 号 二戸市教育委員会の後援・共催等について
第 2 回 定例会	2. 13	一般報告 議案第 1 号 令和 6 年度教育施政方針要旨について 議案第 2 号 市議会定例会提出議案への同意について 令和 5 年度二戸市一般会計補正予算（第 11 号）（うち教育委員会分） 令和 6 年度二戸市一般会計予算（うち教育委員会分） 報告第 1 号 二戸市教育委員会の後援・共催等について
第 1 回 臨時会	2. 27	一般報告 議席の決定 議案第 1 号 教育機関の長の人事について
第 3 回 定例会	3. 21	一般報告 議案第 1 号 課長等の人事について 議案第 2 号 教育機関の長の人事について 議案第 3 号 その他の教育機関の長の人事について 議案第 4 号 二戸市適応指導教室設置要綱の一部を改正する告示 議案第 5 号 二戸市市内県立高等学校通学費補助金交付要綱の一部を改正する告示 議案第 6 号 二戸市教育行政に関する点検及び評価等検証委員会設置要綱の一部を改正する告示 議案第 7 号 市指定天然記念物の指定の解除について 報告第 1 号 二戸市教育委員会の後援・共催等について

(4) 総合教育会議の開催内容

- 開催 1回 (令和5年10月31日)
- 審議内容 今年度及び今後の主な教育事業等について

(5) 教育委員会の会議以外の活動状況

- 教育長による学校訪問を行い、学校現場の実態把握のため校長等職員と情報・意見交換を実施しました。
- 市民に学校を公開する日や学校公開研究会などを視察しました。また、福岡小学校創立150周年記念式典をはじめ、学校の式典(入学式・卒業式)や行事(運動会・学習発表会等)へ参加し、児童・生徒を激励するとともに、保護者・地域住民の様子を含めた学校全体の状況把握と情報収集を行いました。
- 岩手県市町村教育委員協議会委員研修会、東北六県市町村教育委員会連合会教育委員・教育長研修会などに参加し、教育課題の把握及び分析、委員としての資質向上に努めました。
- 定例会等の会議に付議すべき議案の事前説明やその他協議を要するものについて、教育委員会協議会を開催し、研究と審議を深めました。
- 教育振興運動集約集会やはたちの集い、芸術文化総合フェスティバル、文化財講演会などに参加し、教育行政の各分野における知見を深めました。

第3 二戸市教育振興基本計画に基づき令和5年度に実施した 主な事業の取組実績

1 点検・評価制度の基準

A :	・ 令和5年度に実施するものとした計画を、予定どおり完了した。 ・ 数値目標に対し、『100%以上』の実績となった。
B :	・ 令和5年度に実施するものとした計画を、概ね達成できた。 ・ 数値目標に対し、『80%以上 100%未満』の実績となった。
C :	・ 令和5年度に実施するものとした計画に、やや遅れがある。 ・ 数値目標に対し、『60%以上 80%未満』の実績となった。
D :	・ 令和5年度に実施するものとした計画に、かなり遅れがある。 ・ 数値目標に対し、『60%未満』の実績となった。

※数値目標の達成状況を基本としつつ、事業内容も含め総合的に評価する。

2 二戸市教育振興基本計画の施策体系

基本理念・基本目標

学びの広がるまちづくり、未来を拓く人づくり

分野1 学校教育の充実

施策（1）コミュニティ・スクールの導入と推進

項目① 地域とともにある学校づくり

施策（2）学力向上の推進

項目① 新しい時代に求められる資質・能力を育む教育の推進

施策（3）豊かな心を育む教育の充実

項目① 豊かな人間性の育成とよい人間関係づくり

② 郷土理解教育の推進

③ 社会の変化に対応した多様な教育の推進

施策（4）健康・安全教育の推進

項目① 健康・安全教育の充実

② 学校給食の充実

施策（5）幼児教育・特別支援教育等の充実

項目① 幼児教育の支援と連携

② 特別支援教育の充実

③ 高等学校教育の充実

施策（6）教育環境の整備・充実

項目① 学習環境の充実

② 学校施設整備の推進

- ③ 経済的支援の充実
- ④ 通学支援の充実
- ⑤ 教職員の働き方改革の推進

分野2 社会教育の充実

施策（１）生涯を通じた多様な学習環境づくりの推進

- 項目① 多様なメディアを活用した生涯学習情報の発信
- ② 「学び直し」など市民の生涯学習活動の支援

施策（２）教育振興運動を基盤とした地域学校協働活動等による教育力の向上

- 項目① 教育振興運動の推進
- ② 地域学校協働活動の推進
- ③ 体験的・交流的活動の提供
- ④ 指導体制の充実

施策（３）社会教育施設の環境整備

- 項目① 公民館の整備・充実
- ② 図書館の整備・充実
- ③ シビックセンターの整備・充実

分野3 芸術文化の振興

施策（１）芸術文化の振興

- 項目① 芸術文化団体・郷土芸能保存団体への活動支援
- ② 芸術文化に親しむ機会の充実
- ③ 文化施設の整備・充実

施策（２）文化財の保護と活用

- 項目① 史跡九戸城跡の保護と活用
- ② その他の文化財の保護と活用

施策（３）郷土への誇りと愛着を深める地域文化の継承

- 項目① 歴史民俗資料の活用
- ② 市史編さん事業の促進

分野4 スポーツの推進

施策（１）ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

- 項目① 生涯スポーツと健康づくりの推進
- ② 地域のスポーツ環境の整備
- ③ 多種・多様なスポーツ団体の育成

施策（２）体育施設の環境整備

- 項目① 体育施設の整備・充実

3 事業の点検・評価

分野 1 学校教育の充実

施策 (1) コミュニティ・スクールの導入と推進		
項目	①地域とともにある学校づくり 【教育企画課】	
目 的	令和5年度の実施状況	評価及び今後の方向性等
学校と地域が一体となった「地域とともにある学校づくり」の推進	[継続] ■学校運営協議会設置に係る支援 ■コミュニティ・スクールの実践交流 ・コミュニティ・スクールの推進について理解を深めるため、教諭等へ研修に参加するよう働きかけた。 【数値目標】 ・コミュニティ・スクール導入校数 R3 : 11 R7 : 11 (R5達成率 100%)	◎評価 【 A 】 ・小中学校すべてに学校運営協議会を設置し、地域学校協働活動推進員と連携を図るなど、地域とともにある学校づくりが進められた。 ・教諭及び学校運営協議会委員が研修に参加したことで、地域とともにある学校づくりの理解を深めた。 [今後の方向性等] ・学校運営協議会の現状確認や学校の実践事例等の情報提供を行うことで地域とともにある学校づくりを推進する。 【数値目標の実績】 ・コミュニティ・スクール導入校数 R5 : 11 (R4実績値 11)

施策（２）学力向上の推進					
項目	①新しい時代に求められる資質・能力を育む教育の推進【教育企画課】				
目 的	令和５年度の実績状況		評価及び今後の方向性等		
児童生徒の資質・能力を育むために必要な研修を実施し、各校の教員が授業改善の方向性を明確にする	[継続] ■東京学芸大学連携事業 ・先進地視察研修 ・３年目教員研修 ・道徳授業パワーアップセミナー（オンライン研修） ・理科教員研修 ・授業力向上研修 ・道徳授業力向上セミナー ■教育研究所事業 ・新任教職員研修会 ・学力向上委員会 ・幼小連携研修会 ・特別支援教育支援員研修会 ・公開講座 ・ＩＣＴ教育プロジェクト会議 ・社会科副読本改訂委員会 ■スクールタイアップ事業 ・学力向上ヒアリング ・研究授業訪問 ・「まなびフェスト」の作成と評価		◎評価【 A 】		
児童生徒の資質・能力を育むために必要な事業を実施し、教員の授業力や指導力の向上を目指す			・先進地視察研修は、東京学芸大学附属竹早小学校・竹早中学校を訪問し、重点である幼・小・中の連携と円滑な接続について理解を深めることができた。		
児童生徒の資質・能力を育むため、各校が学力向上に向けた検証改善サイクルを実施し、組織的な取組を強化する			・授業力向上研修は、東京学芸大学附属竹早小学校教諭を招いて、模範授業を行い、児童生徒の資質・能力を育むための教材研究のあり方について学ぶことができた。		
			・ＩＣＴプロジェクト会議は、教科書研究センターとの実証研究の一環として実施し、講義・提案授業（小学校算数・中学校英語）を通して、児童生徒の資質・能力を育むためのデジタル教科書の効果的な活用について理解を深めた。		
			・学力向上ヒアリングを実施し、各小中学校の学力向上に向けた検証改善サイクルを振り返り、次年度に向けた組織的な取組について協議することができた。		
			【今後の方向性等】		
			・全国学力学習状況調査では国語、算数・数学とも数値目標を達成できたが、岩手県学習状況調査においては、小学校国語、算数で数値目標を達成することができなかった。課題である「知識及び技能」を活用した「思考力、判断力、表現力等」の力を育成するための授業改善はどうあるべきか、学力向上ヒアリング等を通して学校とともに考えていきたい。		
【数値目標の実績】					
国語					
評価指標		学年	実績値		数値目標
			R4	R5	R7
全国学力・学習状況調査における国語の正答率の国を100とした二戸市の指標		小6	106	110	105
		中3	110	103	101
岩手県学習状況調査における国語の正答率の県を100とした二戸市の指標		小5	106	104	105
		中1	102	107	101
		中2	105	111	102
算数・数学					
評価指標		学年	実績値		数値目標
			R4	R5	R7
全国学力・学習状況調査における算数・数学の正答率の国を100とした二戸市の指標		小6	98	107	102
		中3	109	100	100
岩手県学習状況調査における算数・数学の正答率の県を100とした二戸市の指標		小5	111	105	110
		中1	117	114	101
		中2	105	109	105

施策 (3) 豊かな心を育む教育の充実		
項目	①豊かな人間性の育成とよい人間関係づくり	【教育企画課】
目 的	令和5年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
道徳教育について教員の指導力向上を図り、他人を思いやり良好な人間関係を築くことができる子どもを育てる 一人ひとりに寄り添った相談・支援体制の充実を図る 教育相談・支援体制を充実し、子どもたちが安心して学習し、学校生活を送ることができることを目指す	[継続] ■道徳パワーアップセミナーの開催 - オンラインで2人（福岡小・金田一中）の教員が参加した。 ■適応指導教室「おあしす」の運営 - 不適応状況報告に対する学校の対応への指導や助言を行った。 ≪不登校児童生徒数≫ 小学生9人、中学生36人 - 児童生徒の社会的自立を支援するため、適応指導教室の組織体制、機能の見直しを行った。 ■教育相談員の配置 - 教育相談員による学校訪問を行った。 - 相談件数 57件 （来所18件、電話12件、訪問27件） - 教育支援センターのチラシを一新した。学校に配布したほか、市ホームページに掲載し周知を図った。 ■学校生活アンケートの実施 6～7月に実施した。 - 校長会議での早期対応の助言を行った。 - スクールソーシャルワーカー等による学校訪問や教育相談を実施した。 【数値目標】 - 道徳授業で自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする学習活動に取り組んでいる児童生徒数の割合（％） R3 小学校：95 中学校：95 R7 小学校：95 中学校：95 （R5達成率 98.4% 101.7%） - 不登校児童生徒の割合（％） R3 小学校：0.35 中学校：2.50 R7 小学校：0.35 中学校：2.50 （R5達成率 39.3% 36.2%）	◎評価 【 B 】 - 研修に参加し、子どもの主体性を生かすために教師は「伴走者」のポジションで授業を構想することが必要であること、支援的な問いや仕掛け的な問いなどの「問い」作りが重要であることを学ぶことができた。 - 学校との連絡を密に行い、不適応児童生徒の状況を把握し、適切な助言を行なうことができた。 - 適応指導教室を「教育支援センター」と位置づけ、児童生徒の社会的自立を支援するための機能を強化し、児童生徒や保護者に必要な支援体制を整えた。 - 欠席しがちな児童生徒や保護者、教員等からの相談に対応することができた。 - 児童生徒が安心して学習し、学校生活を送ることができるよう、予防的な対応や長期化する児童生徒の対応について、学校と情報を共有し、今後の対策を考えることができた。 - いじめの実態を把握するとともに、いじめの内容や各校の取組を校長会で共有した。各校の意識の向上といじめの早期発見に努めることができた。 【今後の方向性等】 - オンラインでは参加者同士の協議に参加できないため、次年度は会場での参加とし、道徳教育のより一層の充実を図る。 - 不登校支援会議を年2回開催し、講義や各学校の好事例の共有を通して、より積極的に早期発見、早期対応できるよう支援していく。また、未然防止の観点から不登校傾向にある児童生徒の早期支援を行う。 - 教育相談や教育支援センターについて周知し、相談しやすい環境を整えることで、相談者の悩みを解消していく。 - 各校や関係機関と緊密に連携を図り、不適応児童生徒への継続した対応について支援していく。 【数値目標の実績】 - 道徳授業で自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする学習活動に取り組んでいる児童生徒数の割合（％） R5 小学校：93.5 （R4実績値 88.9） 中学校：96.7 （R4実績値 94.7） - 不登校児童生徒の割合（％） R5 小学校：0.89 （R4実績値 0.78） 中学校：6.90 （R4実績値 5.20）

項目	②郷土理解教育の推進 【教育企画課】	
目 的	令和5年度の実施状況	評価及び今後の方向性等
二戸市の先人、自然、歴史・文化等の学習を通し、郷土に対する理解を深め、愛着心や誇りを育むとともに、次代を担う人材の育成を目指す	[継続] ■複数の教科等横断的な視点に立った郷土教育 - 副読本「わたしたちの二戸市」を小学校3・4年生に配布し、社会科授業で活用した。社会科における資質・能力の育成を図った。 - 現行の学習指導要領に対応した社会科副読本とするために改訂作業を行った。 ■小学5・6年生の2年間を通した小学校副読本の活用 - 副読本「二戸市の先人たち」を小学校5年生から配布し、2年間をかけて二戸市の先人について学んだ。 ■ふるさと探訪塾事業 - 小学校5・6年生を対象に計10回実施し、325人が参加した。 ○小学校5年生 天台寺観光ボランティアガイド、滴生舎による天台寺と漆の学習 ○小学校6年生 九戸城ボランティアガイドによる史跡九戸城跡の学習	◎評価 【 A 】 - 二戸市の地形、農業、商業、工業、公共施設等について学ぶことで、地域への関心を高めるとともに、資料を活用する力の育成につながった。 - 社会科副読本は、現行学習指導要領に対応した課題解決型の流れで児童が学びを進められるように改訂できた。 2年間で計画的に、副読本「二戸市の先人たち」を活用することで、郷土の先人に対する理解を深めることができた。 - ふるさと探訪塾では、事前説明から学校と十分な連携を図り、授業の一環として地域を知る機会となった。 「二戸市の先人たち」や「ふるさと探訪塾」の事後学習として、発表会やまとめの掲示など、学んだことの発信が行われている。 [今後の方向性等] - 改訂した社会科副読本を活用し、社会科で身に付けたい資質・能力を育成するための授業を展開する。 - 小学校卒業時まで、副読本「二戸市の先人たち」について理解を深めることを目標に取り組む。また、「ふるさと探訪塾」と連携しながら、見学の事前学習や事後学習等に生かすように働きかける。 - ふるさと探訪塾は、引き続き、実際に現地を訪れることで、愛着心や誇りを育むとともに、郷土への理解を深め、教育を通じた人材育成を図る。
項目	③社会の変化に対応した多様な教育の推進 【教育企画課】	
目 的	令和5年度の実施状況	評価及び今後の方向性等
国際社会において、主体的、積極的に協働していくことができるよう、コミュニケーション能力の向上を図りながら、国際感覚を有する人材の育成を図る	[継続] ■キャリア教育推進事業 - 各学校のキャリア教育の推進の支援に加え、ふるさと探訪塾の実施、副読本の活用等、キャリア発達を促す取組を推進する。 ■小中学校へのALT講師の派遣、小学校への英語教育アドバイザーの派遣 - ALT2人、英語教育アドバイザー1人を配置し、市内小中学校を巡回して英語教育を支援した。 ■中高生海外派遣研修事業 - 中学生10人、高校生4人の計14人を派遣し、国際感覚豊かな人材の育成を図った。 参加者 中学生10人、高校生4人 日 程 令和6年1月4日～10日 場 所 イギリス（ロンドン、グラスゴー） ■中学生異文化交流事業 - 中学生と留学生を含む岩手大学の学生と交流を通じ、異文化の理解を深めた。 参加者 中学1・2年生8人 日 程 令和5年7月1日 場 所 岩手大学	◎評価 【 A 】 - 職場訪問などを通じ、職業に対する興味や関心を深めるほか、ふるさと探訪塾の実施などにより、郷土理解を深め、愛着心や誇りを育み、キャリア教育の推進が図られた。 - ALT講師や英語教育アドバイザーを配置し、英語教育の充実が図られた。 - コロナ禍により中止となっていた中高生海外派遣研修事業及び異文化交流事業を再開することができた。 [今後の方向性等] - キャリア教育は、職場体験や見学等に加え、キャリア発達を促す取り組みを推進していく。 - 英語教育アドバイザーは、英語専科教員が全小中学校に配置される見込みのため終了する。 - 中高生海外派遣研修及び中学生異文化交流事業は、事業目的を踏まえたうえで実施の在り方を検討する。

施策 (4) 健康・安全教育の推進		
項目	①健康・安全教育の充実 【教育企画課】	
目 的	令和5年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
児童生徒が健康や運動、食事に関心を持ち、健康的な生活習慣と運動習慣を身に付ける	[継続] ■感染症対応 - 家庭や学校と連携し、児童生徒の感染予防と感染状況の把握を行った。 《学級等閉鎖件数》 新型コロナウイルス感染症による閉鎖 6件 季節性インフルエンザによる閉鎖 13件 ■学校保健の推進 - 疾病の早期発見、早期治療のため、内科検診、歯科検診、尿検査等、健康診断を実施した。 - 学校環境衛生検査の実施により、学校環境を把握し改善を図った。 - 学校と医療機関、行政の連携により、健康に関する指導方法の協議を行った。 - 二戸地区学校医連絡協議会において、医療機関、学校、各教育委員会、保健師、栄養士により構成する小委員会を設置し、二戸地区全体の肥満に関する分析とその対応を研究した。 【数値目標】 - 肥満傾向児童生徒の割合(%) 小4 R3 : 13.8 R7 : 11.8 (R5達成率 67.0%) 中1 R3 : 13.3 R7 : 11.3 (R5達成率 63.1%)	◎評価 【 B 】 - 児童生徒の感染予防に取り組むとともに、学校医等との連携により感染状況を見極め、学級閉鎖等の適切な対応を行ったことで、連鎖的な感染拡大を防ぐことができた。 - 医療機関等との連携により、地域全体で児童生徒の健康を維持・増進するための取組を実施することができた。また、肥満対策については、肥満傾向児の割合は依然高いものの、園（保育所）・学校・医療機関・保護者等が一体となり対策を検討し、今後に向けたアプローチについて共有を図ることができた。 [今後の方向性等] - 引き続き感染予防に配慮しつつ、教育・健康活動の充実を図る。 - 学校と医療機関等との連携を密にして、地域全体で健康教育の推進に努める。また、肥満対策については、学校・医療機関・保護者等が改善に向けて取り組む必要があることから、学校における児童生徒への教育、各種検診を進めるほか、研究大会などの場を通じて、保護者への健康教育を推進する。 【数値目標の実績】 - 肥満傾向児童生徒の割合(%) 小4 R5 : 17.6 (R4実績値 14.1) 中1 R5 : 17.9 (R4実績値 18.1)
児童生徒の安全安心な学校生活の確保と安全教育を推進する	[継続] ■安全教育の推進 - 二戸市通学路交通安全プログラムについて、対策箇所の解消に向け通学路の点検、確認を行った。また、保護者に対しアンケート調査を実施した。 - 各学校において、スクールガードによる通学路での登下校時の見守り活動や危険箇所等の見回り活動を実施した。 - 各学校で交通安全教室を実施し、児童生徒が自ら安全に行動できるよう交通ルールや自転車の安全運転等の指導を行った。	◎評価 【 A 】 - 通学路の安全を継続的に確保するため、関係機関と連携し、対策の内容確認と対策実施後の効果把握を行い、安全確保の充実を図ることができた。 [今後の方向性等] - 取組を継続することで、児童生徒に交通安全についての意識の定着を促すとともに、通学路の安全確保のため、関係機関や地域と連携し、危険箇所や注意箇所の把握に努める。

項目	②学校給食の充実 【学校給食センター】	
目 的	令和5年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
食に関する指導のさらなる充実を図り、望ましい食習慣と健全で豊かな食生活を実践する力を習得させる 学校給食に地場産物を使用することにより、地域の自然や文化、産業等に関する理解を深め、生産者や食材への感謝の気持ちを育む	[継続] ■栄養教諭による食に関する指導 ・栄養教諭における食に関する指導を実施した。 栄養教諭による食に関する指導 39回 給食訪問 26回 ・毎月配布する「二戸(にこ)食だより」や「こんだてのおしらせ」を活用し、食の正しい知識や食習慣の普及を図った。 ・小学校に生産者や調理員を招き、給食と一緒に食べながら日頃の苦労や喜びについて学ぶ「ふれあい給食」を開催した(御返地小学校)。 ■オール二戸食材の日(年1回) ・献立に用いる食材のすべてに地場産物を利用した給食を提供した。 実 施 日 令和5年10月11日 献立内容 秋の雑穀ごはん 牛乳 二戸短角牛のすき煮 いろどりなます 二戸りんご ■食育の日(毎月19日) ・肥満予防の取り組みとして、よく噛むことを意識した「かみかみ献立」を提供した。 ■二戸(にこ)食の日(毎月25日) ・児童生徒が郷土への関心や、自然や生産者への理解を深めるよう、地場産物や郷土料理を取り入れた献立を提供した。 ■地場産物の活用(市農林課連携事業) ・市農林課から、市内産食材購入費用の一部補助や、市内産食材の紹介を受けるなど、連携し地産地消に取り組んだ。 ■物価高騰への対応 ・物価高騰に対応するため一般財源から食材費を補填し、食材の選定や献立の工夫等を行いながら、栄養基準を満たし質も維持した給食の提供に努めた。	◎評価 【 A 】 ・栄養教諭による食に関する指導や肥満に関する個別面談を通し、児童生徒や保護者に正しい食事の知識や食習慣について理解を深めることができた。 ・各取組により、地産地消の推進、地域の豊かな食材を通した生産者への感謝の気持ちや郷土への理解を深めることができた。 ・物価高騰に対応しながら、食材の選定や献立の工夫等を行い、栄養基準を満たし質も維持した給食を提供することができた。 [今後の方向性等] ・引き続き、食に関する指導の充実を図るとともに、「二戸(にこ)食だより」や「こんだてのおしらせ」を活用し、生産者の紹介などを通して地産地消の意義を学び、食に関する正しい知識と食習慣の普及に努める。 ・令和6年度から給食費の段階的な改定を実施するため、保護者に対して適切な時期に周知を図っていく。

施策 (5) 幼児教育・特別支援教育等の充実		
項目 ①幼児教育の支援と連携【教育企画課】		
目 的	令和5年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
関係部局と連携を図り、幼児及びその保護者に対する相談や支援を充実する 小学校生活へ円滑に適應できるよう、情報共有と相互理解が図られる体制を構築する	[継続] ■幼小連携推進会議 ・5歳児発達相談へ教育相談員を派遣し、保護者向けの就学に関する説明を行った。 対象者数（幼児数） 143人 ・社会福祉協議会「早期発達相談」や発達支援センター「風」へ職員を派遣し、「就学に向けて」の講義を行った。 ■幼小連携研修会 ・幼小連携研修会の在り方について協議し、二戸市接続カリキュラムの周知を行った。 ・市内小学校において、授業参観を実施した。 ・小学校生活への円滑な接続のため、幼児連絡票を就学時健診に活用した。	◎評価 【 A 】 ・保護者に対し、教育相談員からの説明を実施することで、就学に向けた意識を醸成するとともに、子どもへの関わり方についての理解を深めることができた。 ・早期発達相談や発達支援センターでの学習会で就学に向けての講義を行ったことにより、就学相談につなげることができた。 ・幼小連携研修会では、子どもに付けたい力を確認し、二戸市接続カリキュラムをもとにした協議を行うことができた。 ・小学校1年生の授業参観を実施し、指導や支援のつながりを意識した指導の在り方を学ぶことができた。 [今後の方向性等] ・認定こども園や保育所等で開催される学習会等があれば、職員の派遣を行う。 ・「幼児教育」「小学校教育」相互に活動場面や実際の授業の参観を通して「学びの進め方の違い」についての理解を更に深め、二戸市の接続カリキュラムの改善につなげる。 ・県の「いわて幼児教育センター」と連携を図り、幼児教育と小学校教育の円滑な接続に努める。

項目 ②特別支援教育の充実 【教育企画課】								
目 的	令和5年度の取組状況	評価及び今後の方向性等						
特別な支援を要する児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、支援員を配置し、体制の充実を図る 児童生徒の状況に応じた学習環境の整備やきめ細やかな支援の在り方の検討を通して、支援の充実を図る	[継続] ■特別支援教育支援員の学校への配置 ・特別支援教育支援員16人を市内小中学校7校に配置し、特別な支援を要する児童生徒に対し、きめ細やかな支援を行った。 ■教育支援委員会の開催 ・特別な支援を要する児童生徒一人ひとりについて、望ましい学習環境や支援の在り方を検討するために年3回開催した。 ・各学校で実際に指導に当たる特別支援教育コーディネーターや特別支援学級担任からなる「教育支援委員会実務者会議」を開催し、児童生徒の情報を収集するとともに、支援の方向性について検討した。 ■認定こども園、保育所等への就学前の訪問 ・担当者が市内の認定こども園、保育所、関係施設を訪問し、就学支援に向けた参観と情報交換を行った。（保育所3か所、こども園4か所、発達支援センター「風」、はまなす医療療育センターを訪問）	◎評価 【 A 】 ・児童生徒個々の状況に応じた支援を行うことで、学習活動等、安心した学校活動につながった。 ・就学予定児に対して、関係機関や専門委員との連携により、早い時期からの相談を実施したことで、望ましい就学先を決定することができた。 ・教育支援委員会実務者会議を実施したことで、増加している対象児童生徒について、よりよい教育支援につなげることができた。 ・担当者が園を訪問することにより、スムーズな就学支援や引継ぎを行うことができた。希望した小学校長の訪問もあり、入学後の支援について、園と小学校の情報を共有をすることができた。 [今後の方向性等] ・児童生徒一人ひとりの状況に応じた適切な支援の実施と円滑な就学支援や学級運営のために、これまでの取組を継続することで、児童生徒及び学校の状況把握に努める。						
項目 ③高等学校教育の充実 【教育企画課】								
目 的	令和5年度の取組状況	評価及び今後の方向性等						
生徒から選ばれる魅力ある学校づくりのための市内高等学校等との連携	[継続] ■市内高等学校の魅力化の支援 ・広報にのへによる市内高校特集の連載 ・市内全中学生への高校特集ページの配布 ・福岡工業高校課題研究発表会への参加 ・学校パンフレット、ホームページ製作への補助 ・岩手県に対する要望活動 ・市内高等学校通学費補助 ＜内訳＞ <table border="1"> <tr> <td>福岡高等学校</td> <td>90人</td> <td>2,983千円</td> </tr> <tr> <td>福岡工業高等学校</td> <td>98人</td> <td>4,146千円</td> </tr> </table>	福岡高等学校	90人	2,983千円	福岡工業高等学校	98人	4,146千円	◎評価 【 A 】 ・通学費補助を行うことで、保護者の経済的負担の軽減につながったほか、市内高等学校や関係者等と連携し、生徒から選ばれる学校づくりを支援することができた。 [今後の方向性等] ・市内高等学校の魅力を高める取り組みについて支援を行い、入学者の増加につなげる。
福岡高等学校	90人	2,983千円						
福岡工業高等学校	98人	4,146千円						

施策 (6) 教育環境の整備・充実		
項目	① 学習環境の充実 【教育企画課・図書館】	
目 的	令和 5 年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
教育の情報化に対応した情報活用能力の育成を目指した学習活動の推進	[継続] ■ G I G A スクール推進事業 ・タブレットの活用方法について、教職員向けの研修等を実施した。	◎評価 【 A 】 ・新任や操作に不慣れな教職員向けの操作研修や児童の操作支援を実施し、教職員の授業における I C T 活用能力を底上げすることができた。 [今後の方向性等] ・整備した I C T 機器を活用するための研修を実施するとともに、次期更新に向けた計画を策定する。
幼児期から本に親しむ機会や環境を整えることで、読書意欲の向上及び読書習慣の定着を図る	[継続] ■ 図書に親しむまち推進事業 ・ブックスタート（10か月児）乳児92人に絵本を贈呈した。 ・おはなしデビュー（3歳児）幼児121人に絵本を贈呈した。 ・市内全小中学生に、希望する図書を贈呈した。（小1,034冊、中542冊 計1,576冊） ・学校図書館支援員（2人）の配置により、各小中学校の巡回訪問を行い、蔵書の管理、図書室の環境整備の支援等を実施した。 ・新聞に親しむよう小学校5・6年生にこども新聞、中学校3年生に一般紙を配布した。また、過去の記事も検索可能なオンライン版新聞記事の「プラス日報」を試験的に導入し、タブレットで新聞を読むことができる環境を整えた。	◎評価 【 A 】 ・7月よりブックスタートで、感染予防対策で中止していた読み聞かせを再開することができた。 ・プレママを対象としたハピママ・ファーストブックを開催し、出産を控えた親に読み聞かせ講座を行い、読み聞かせの大切さを伝えた。 ・児童生徒へ図書の贈呈を行うことで本を読む機会を提供できたとともに、学校図書館支援員の配置により、学校図書室の環境整備が図られた。また、学校図書管理システムを導入し蔵書管理の負担軽減を図った。 ・こども新聞や一般紙の配布により、社会への関心が高まり、国内外の社会の動きに目を向けるとともに、プラス日報の導入により興味のあることをさらに深掘する児童生徒が多くなった。 [今後の方向性等] ・こども家庭課が実施する産前産後サポート事業にハピママ・ファーストブックを組み入れて、対象者の参加を促していく。 ・こども新聞、一般紙、プラス日報について、学校と情報共有しながら活用を図る。
教育備品等の整備により授業の効率化を図り、児童生徒の確かな学力を育成する	[継続] ■ 小中学校教材備品整備事業 ・学習指導要領改訂に伴い、学習指導要領のポイントである観察・実験や図形・測定を重視した理科、算数教育の実現に向けて、環境整備を実施した。	◎評価 【 A 】 ・各小中学校に聞き取りを行い、理科、算数教育の実現のために必要な観察、実験装置等の整備を行った。 [今後の方向性等] ・各小中学校の観察・実験を重視した理科、算数・数学教育の実現のために必要な観察・実験装置等を整備する。
項目	②学校施設整備の推進 【教育企画課】	
目 的	令和 5 年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
計画的な改修により施設の安全確保と長寿命化を図る	[継続] ■ 小中学校リフレッシュ事業 ・中央小学校受変電設備改修工事 ・金田一小学校受変電設備改修工事 ・金田一小学校プールろ過機等改修工事 ・金田一中学校外壁外構改修工事	◎評価 【 A 】 ・改修工事等を計画どおりに実施し、児童生徒の安全かつ快適な教育環境を確保することができた。 [今後の方向性等] ・計画的な改修に努める。

項目	③経済的支援の充実 【教育企画課】	
目 的	令和5年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
経済的理由による教育の格差が生じないよう、就学支援や育英資金制度により教育の機会均等を確保する	[継続] ■就学支援 - 要保護及び準要保護児童生徒（278人・18.1%）の保護者に対して就学に必要な経費の一部を援助した。 - 随時、申請を受け付け、必要な援助を受けられる環境を整えた。 - 令和6年度新入学児童生徒への学用品費の入学前支給を実施した。	◎評価 【 A 】 - 援助が必要と認められる児童生徒の保護者に対し適切に援助を行い、経済的負担軽減と教育の機会均等の確保につなげることができた。 [今後の方向性等] - 学校と連携し、保護者へ制度の周知を図りながら、適切に支援を行う。
経済的理由により修学が困難な者に対して、修学の機会を確保する	[継続] ■育英資金貸与事業 - 高校5人、大学等32人、計37人に貸与した。 - 就業者に対する返還の免除件数 市内に住所を有し、市内で就業する者 12件 市内に住所を有し、市外で就業する者 4件	◎評価 【 A 】 - 令和4年度より返還免除の制度を拡充したことにより、市内への就業や定住の促進につながった。 [今後の方向性等] - 貸与希望者に対する円滑な貸与を行うとともに、返還金の滞納者に対し督促を行う。また、返還免除制度の拡充を周知し、貸与生の定住化を促進する。
項目	④通学支援の充実 【教育企画課】	
目 的	令和5年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
遠隔地から通学する児童生徒の保護者に対し、スクールバス等の運行や通学費の補助をすることで、経済的負担の軽減を図る	[継続] ■遠距離通学者への支援の充実 - 児童生徒を輸送するスクールバス等を運行した。 - 浄法寺地区のスクールバス1台を更新した。 - 公共交通機関を利用する遠距離通学者等への補助を実施した。	◎評価 【 A 】 - 遠距離通学者等の児童生徒の保護者に対し必要な支援を行ったことで、負担軽減につながった。 [今後の方向性等] - スクールバスの運行及び通学費補助を継続する。また、老朽化したスクールバスの更新を計画的に行う。
項目	⑤教職員の働き方改革の推進 【教育企画課】	
目 的	令和5年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
教育の質の向上を図るため、教職員が働きやすい環境を整備し、心身ともに健康を維持できる安全衛生管理に取り組む	[継続] ■働き方改革の推進 「二戸市教職員働き方改革プラン」に基づき、勤怠管理システムによる教職員の勤務時間の適正管理と業務の改善に取り組んだ。 - 時間外勤務が80時間/月以上の教職員に対する産業医による面接指導を実施した。 指導件数 5件 - 中学校部活動運営方針に基づき部活動を実施した。	◎評価 【 B 】 - プランに掲げる各種の取組みを行い、小学校では目標に達しなかったものの、中学校においては目標を達成した。 ≪1月当たり平均時間外勤務≫ 小学校 36時間47分 前年比2.4%増 中学校 45時間56分 前年比10.5%減 [今後の方向性等] - 新たに導入される統合型校務支援システムを活用することで、教職員の校務の負担軽減を図る。 - 中学校部活動については、現状把握と課題整理を行い、地域連携を進めていくことで教職員が働きやすい環境を整備していく。

分野2 社会教育の充実

施策 (1) 生涯を通じた多様な学習環境づくりの推進		
項目	①多様なメディアを活用した生涯学習情報の発信 【生涯学習課】	
目 的	令和5年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
生涯学習情報の収集及び提供による生涯学習の普及啓発	[継続] ■生涯学習の普及啓発 広報にのへやホームページ、カシオペアFMを活用し、放送大学をはじめ各種講座について情報提供した。	◎評価 【 A 】 - 複数媒体による情報提供により市民の講座への参加を促し、生涯学習の普及啓発を図ることができた。 [今後の方向性等] - 引き続き、ホームページやカシオペアFMなど多様なメディアを活用した生涯学習の普及啓発に努める。
項目	②「学び直し」など市民の生涯学習活動の支援 【生涯学習課】	
目 的	令和5年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
放送大学岩手学習センター二戸校の周知や利用環境の整備を図り、市民が気軽に立ち寄れる学習拠点としての活用	[継続] ■放送大学岩手学習センター二戸校の周知・環境整備 - 広報にのへに入学生募集や大学説明会の案内を2回掲載したほか、ホームページやカシオペアFMにより周知した。 - DVDやCDで視聴できる外国語科目の充実に努めた。 二戸校利用者数 延べ42人	◎評価 【 B 】 - 利用者は昨年度に比べ減少したが、広報掲載月には新規の利用がみられるなど、利用促進が図られた。 [今後の方向性等] - 広報にのへやホームページなど複数媒体による周知を継続し、認知度の向上に努めるとともに多様な科目を配架し、利用者の関心を高めるよう努める。
生涯にわたり、幅広く学習できるよう各種講座の充実と社会の変化に対応した学習機会の提供	[継続] ■多様な学習ニーズに応える講座の開催 - 広報にのへ、カシオペアFM、SNSなどを活用し、講座や教室の周知を図った。 - 各年代（少年、一般、高齢者）に応じた講座や教室を実施した。 高齢者のための講演会 140人 大人の社会科見学 22人 書き初め大会 60人 ヨガ教室 19人 ライザップ講座 15人 コミュニティセンター講座 85回 1,690人 ≪対象者別内訳≫ 少年（昔生活用具作り、人形劇等） 165人 一般（おとな塾、創作、手芸等） 1,525人 ≪コミュニティセンター別内訳≫ 二戸中央コミュニティセンター46回 824人 金田一コミュニティセンター 31回 758人 浄法寺カシオペアセンター 8回 108人 - 文化祭の実施と各種サークルへの支援を行った。	◎評価 【 A 】 - 生活に必要な知識や技能の習得、教養を身につける学習機会の提供により、幅広い世代の学びにつながった。 [今後の方向性等] - 引き続き、学習ニーズの把握に努め、市民が受講しやすい環境整備に努めるほか、豊かな地域コミュニティづくりに資するよう、住民相互や幅広い世代が交流できる事業を展開する。 - 市民の創作活動を披露する場を提供しながら、文化芸術に親しむ場の整備に努める。
次世代の育成や地域課題に取り組む社会教育団体へ支援を行い、地域の社会教育活動の推進につなげる	[継続] ■社会教育団体への支援 - 活動した2団体に対し補助金を交付した。 浄法寺ユネスコ協会 二戸市PTA連合会 - 活動に対する相談などへ対応した。	◎評価 【 A 】 - 社会教育団体への補助金交付により、地域の社会教育活動を支援することができた。 [今後の方向性等] - 社会教育団体の活動状況把握に努めるとともに、継続して支援を行う。

施策 (2) 教育振興運動を基盤とした地域学校協働活動等による教育力の向上		
項目	①教育振興運動の推進 【生涯学習課】	
目 的	令和5年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
家庭・学校・地域の連携を深め、家庭・地域の教育力向上に努める	[継続] ■各学校における家庭教育学級の開催 - 全実践区（全小中学校）において、家庭教育に関する幅広い内容で「家庭教育学級」を開催した。 ■「家庭教育の手引き」の発刊 - 小学校1年生から中学校3年生までの子どもの発達段階に応じた家庭での家庭学習、生活、読書など学習環境づくりを具体的に紹介する手引きを、市内の全児童生徒の保護者に配布するとともに、ホームページに掲載した。 ■教育振興運動集約集会の開催 - 家庭・学校・地域・行政が取り組んでいる子どもを中心とした実践区の活動状況の発表を行った。また、親子関係のあり方や保護者の関わりに関する講演を実施した。 【数値目標】 - 家庭教育学級開催数(回) R3：44 R7：44 （R5達成率 77.3%）	◎評価 【 A 】 - 各実践区（各学校）が主体となり家庭教育に活かせる様々な学びの機会を提供し、教育力の向上につなげることができた。 「家庭教育の手引き」の配布とホームページへの掲載により、家庭教育での活用につながった。 - 実践区の発表を行うことで活動への理解を深めるとともに成果や課題を共有し子育てへの意識が高まった。 【今後の方向性等】 - 今後も各実践区と連携しながら学びの機会を提供するとともに子どもの育つよりよい環境づくりに努める。 【数値目標の実績】 - 家庭教育学級開催数(回) R5：延べ34 （R4実績値 延べ33）
項目	②地域学校協働活動の推進 【生涯学習課】	
目 的	令和5年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
「学校を核とした地域づくり」を目指し、地域学校協働活動を推進する。	[継続] ■地域学校協働本部の設置 地域学校協働活動統括推進員や地域学校協働活動推進員を配置し、地域住民や団体と連携して事業を行うことで「学校を核とした地域づくり」を推進した。 ≪地域学校協働活動推進員設置校≫ 1校（仁左平小学校）	◎評価 【 B 】 - 地域学校協働活動統括推進員1人を配置するとともに、地域学校協働活動本部を設置した1校で地域学校協働活動を推進し、コミュニティ・スクールとの連携を図ることで、学校・家庭・地域の活性化につなげることができた。 【今後の方向性等】 - より多くの児童生徒が様々な学びを体験できるよう、地域学校協働活動推進員の配置や各種団体と連携した活動の実施に努める。

項目	③体験的・交流的活動の提供 【生涯学習課】	
目 的	令和5年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
将来を見据え、大きな志を持って自己実現と社会貢献を目指す青少年の育成	[継続] ■槻蔭舎きぼう塾事業（対象：中学生） ・大学訪問や歴史講話、移動学習など、3講座を実施した。 ○大学訪問「大学探訪in岩手大学」 内 容 ミニ講義、キャンパスツアー 参加者 12人 ○歴史講話「古典芸能で学ぶ 田中館愛橘博士」 内 容 講談「偉人・田中館愛橘博士」、落語、マジック 出 演 講談・神田阿久鯉氏 落語・桂小文治氏、桂しゅう治氏 マジック・きょうこ氏 お囃子・古田尚美氏 参加者 650人（市内全中学生、教育関係者） ○移動学習「はじめての天文学講座～いわてで紐解く！宇宙と地球～」 場 所 奥州宇宙遊学館 内 容 四次元デジタルシアター鑑賞、施設見学 参加者 2人 ■ジュニア槻蔭舎きぼう塾（対象：小学生） ・国立科学博物館で田中館愛橘博士ゆかりの展示品や貴重なコレクションを見学した。 ・東京国立博物館で特別展 建立900年「中尊寺金色堂」を見学した。 《国立科学博物館（常設展・特別展）・東京国立博物館（特別展）見学》 参加者 15人	◎評価 【 A 】 ・槻蔭舎きぼう塾では3事業を実施。それぞれの事業参加者の感想から、自身の学びや気づきが何え、郷土理解と進路実現の機会を提供することができた。 ・ジュニア槻蔭舎きぼう塾では、優れた芸術や科学等にふれることで知的関心を高め、主体的な学びや豊かな心を育む機会を提供することができた。 [今後の方向性等] ・郷土の魅力を認識し、自己の成長や生まれ育った地域の発展に貢献しようとする人材の育成につながる講座の実施に努める。
子どもたちが安心して活動できる場の確保と、日常の中で多くの人と関わり、体験的・交流的活動を行う機会を提供する	[継続] ■放課後子ども教室の開催 ・放課後子ども教室を市内6か所で延べ990日開設し、延べ12,825人が利用した。（申込者数 198人） ・中央小学校の「みなわ子ども教室」と二戸西小学校の「斗米地域子ども教室」は、児童クラブとの一体型として実施した。 ・長期休暇のバスツアーを再開し2回実施した。 ・児童クラブとの合同体験イベントを各小学校区で実施した。（計8回） ・指導者対象の研修会を1回開催した。 【数値目標】 ・体験・交流イベントの参加児童満足度（%） R3：90 R7：90（R5達成率 106.7%）	◎評価 【 A 】 ・子どもたちが安全で自主的な活動ができる居場所として、地域の方々や学校と連携しながら放課後子ども教室を開設・運営し、日常的に学年などを越えた交流や学習・スポーツ体験の機会を提供することができた。 ・申込者が教室に満足している割合は90.0%であり、子どもが安心して活動できる場所が構築できていることを確認できた。 [今後の方向性等] ・引き続き、地域の方々の参画を得ながら学校と連携し、幅広い体験・交流活動ができる場の確保に努める。 【数値目標の実績】 ・体験・交流イベントの参加児童満足度（%） R5：96（R4実績値 94）

項目	④指導体制の充実 【生涯学習課】	
目 的	令和5年度の実施状況	評価及び今後の方向性等
社会教育事業の推進を図るための専門職員配置及び、社会教育に関わる職員の資質向上	[継続] ■専門職員の配置 - 社会教育指導員を配置し、コミュニティセンター講座をはじめ、教育振興運動、地域学校協働活動などへの指導助言を行った。 ■各種研修や大会等への社会教育関係者の参加 - 社会教育に関わる研修案内を行い、学校関係者、社会教育、家庭教育関係者、職員等に各種研修への参加を促した。 【数値目標】 - 県立生涯学習推進センター研修参加者数(人) R3 : 27 R7 : 30 (R5達成率 140%)	◎評価 【 A 】 - 県立生涯学習推進センターのほか、県北教育事務所や県社会教育連絡協議会等関係機関の研修会に参加し、知識の習得や資質向上が図られた。 【今後の方向性等】 - 社会教育に関する専門的助言及び指導を行うため、専門職員の資質向上に努める。 【数値目標の実績】 - 県立生涯学習推進センター研修参加者数(人) R5 : 42 (R4実績値 45)

施策 (3) 社会教育施設の環境整備		
項目	①公民館の整備・充実 【公民館】※公民館からコミュニティセンターへ移行	
項目	②図書館の整備・充実 【図書館】	
目 的	令和5年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
市民の学習活動の支援及び学校と連携した読書活動の充実を図る 適切な施設の維持管理を行い利用環境を整える	[継続] ■学校と連携した学習活動支援 ・図書館見学受入 市内小学校6校 ・ブックツアー受入 市内小学校1校(3回) ・移動図書館車での定期巡回の実施 ・学校への参考図書の貸出(随時) ・こども司書講座の実施 ■施設の計画的改修 ・機械室換気扇修繕 ・非常用照明設備修繕 ・冷温水循環ポンプ修繕 【数値目標】 ・貸出冊数(冊) - 市立図書館 R3: 91,500 R7: 92,000 (R5達成率 86.3%) - カシオペアセンター図書室 R3: 5,400 R7: 5,500 (R5達成率 93.0%)	◎評価 【 B 】 ・ブックツアーや図書館見学は、児童が図書館を知るきっかけとなり、たくさんの本に触れ、図書館の魅力を伝えることができた。 ・移動図書館車の外装が新しくなり、児童が興味関心を持ち、図書貸出のきっかけに繋げることができた。 ・館内主催のPOPコンテストでは、2校での校内での取り組みがあり、学校と連携した推進活動となった。 ・図書館システムの機器更新に合わせて、セルフ貸出を開始しサービスの向上に努めた。 【今後の方向性等】 ・継続して学校と連携を持ちながら、同時に親世代にも読書の大切さを感じてもらえるよう魅力ある企画を盛り込み、児童の読書活動の推進を図る。 ・市民のニーズに対応した蔵書の充実に努める。 ・施設設備等の計画的な更新と修繕により、利用環境を整える。 【数値目標の実績】 ・貸出冊数(冊) - 市立図書館 R5: 79,432 (R4実績値 82,742) - カシオペアセンター図書室 R5: 5,115 (R4実績値 5,065)
項目	③シビックセンターの整備・充実 【生涯学習課】	
目 的	令和5年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
指定管理者と連携し、科学技術や芸術作品に市民が気軽に触れる機会の拡充に努める	[継続] ■幅広い内容の企画・展示 ・芸術作品等に触れる機会を創出するため、市内小学校の美術作品の展示をはじめ、多様な展示やイベントを行った。 小さな美術館 若田宇宙飛行士ミッション報告会 GWイベント、開館記念イベント、新春イベント、長期休暇イベント 星空観望会 福田繁雄デザイン館企画展(第55、56回、57回、特別展) 昭和ノスタルジック写真展 ■施設の計画的改修 ・施設設備の点検を行い、修繕等を行うことで環境整備を図った。 エレベーター修繕 自動制御機器修繕	◎評価 【 A 】 ・科学技術や芸術作品に触れる機会を創出したことで、より気軽に楽しめる空間を提供できた。 ・施設の改修等環境整備を行い、適切な整備を図ることができた。 【今後の方向性等】 ・各階の特性を活かした各種展示や新規事業を実施し、引き続き、市民が気軽に作品に触れる機会の拡充に努める。 ・施設点検を実施し、施設の改修を進める。

分野3 芸術文化の振興

施策 (1) 芸術文化の振興		
項目	①芸術文化団体・郷土芸能保存団体への活動支援	【生涯学習課・文化財課】
目 的	令和5年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
地域の芸術文化の継承と活動団体の育成支援	[継続] ■芸術文化団体への支援 ・芸術文化団体の活動に対し補助金を交付した。 二戸市芸術文化協会 浄法寺町芸能協会	◎評価 【 A 】 ・補助金の交付により、各支援団体の自主的な芸術文化活動の支援につながった。 [今後の方向性等] ・市民が主体となった芸術文化活動の継続支援に努める。
市民の芸術文化活動の発表の場とした文化祭の開催	[継続] ■二戸市文化祭の実施 ・市文化祭の開催について2団体へ委託した。 二戸会場：二戸芸術文化協会 浄法寺会場：浄法寺地区文化祭実行委員会 《舞台公演》 民謡・吹奏楽・合唱・演劇を実施した。 新たに総合フェスティバルを実施した。 《展示部門》 市内6会場（市民文化会館、なにやーと、二戸中央コミュニティセンター、金田一コミュニティセンター、浄法寺文化交流センター、堀野生いき交流センター）で開催した。 入場者数：4,717人（対前年比892人増） 【数値目標】 ・文化祭の入場者数(人) R3：4,300 R7：4,300（R5達成率 109.7%）	◎評価 【 A 】 ・地域文化の継承や市民が自主的に文化芸術活動に親しむための活動発表の場を提供することができた。 [今後の方向性等] ・若い世代をはじめ幅広い年代の市民が芸術文化に親しみ体験、発表する機会の提供に努める。 【数値目標の実績】 ・文化祭の入場者数(人) R5：4,717（R4実績値 3,825）
市民の芸術文化活動の情報発信	[継続] ■芸術文化関連の情報発信 ・市民文化会館や浄法寺文化交流センターにおいて開催する芸術文化活動をはじめ、各団体による展覧会等について、広報にのへやホームページ、カシオペアFMにより情報発信を行った。	◎評価 【 A 】 ・広報にのへ等により芸術文化活動や展覧会等について周知を行うことで、市民に対し広く情報提供することができた。 [今後の方向性等] ・市民が気軽に芸術文化に参加できるよう複数媒体を活用した情報提供に努める。

分野3 芸術文化の振興

目 的	令和5年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
郷土芸能団体の保存継承に努め、活動の活性化を図る	[継続] ■郷土芸能保存団体の育成 - 市指定無形民俗文化財（民俗芸能）17団体のうち、活動をしている11団体に対し育成補助金を交付した。 呑香稲荷神社神代神楽保存会 下斗米山伏神楽保存会 武内神社神楽保存会 坂本七ツ物保存会 金田一神楽保存会 深山神社神楽保存会 駒ヶ嶺新山神楽保存会 大森大神楽保存会 浄法寺七ツ物保存会 浄法寺鹿踊り保存会 似鳥神楽保存会 - 文化財愛護少年団育成補助金を交付した。 下斗米文化財愛護少年団 【数値目標】 - 民俗芸能活動団体数（団体） R3：12 R7：12（R5達成率 100%）	◎評価 【 A 】 - 多くの団体が後継者不足や財政的な課題がある中、補助金の交付により活動を支援することができた。 - 市郷土芸能祭等や各保存団体においては、地元の神社、学校等で郷土芸能活動を実施した。 [今後の方向性等] - 引き続き財政的支援を行い、郷土芸能祭の開催支援などと併せて、郷土芸能について市民への周知を図る。 - 後継者の確保など各団体が抱える課題について、連絡協議会などの場で協議検討を行い課題解決へつなげる。 【数値目標の実績】 - 民俗芸能活動団体数（団体） R5：12（R4実績値 12）
郷土芸能祭の開催を支援し、郷土芸能活動の活性化を図る	[継続] ■二戸市郷土芸能祭の開催支援 - 二戸市郷土芸能祭 北緯40° ナニャトヤラ連邦郷土芸能交流祭と併催 10団体が出演 参加者 800人（R4 420人） - 二戸地区郷土芸能発表会 深山神社神楽保存会が参加	◎評価 【 A 】 - 二戸市郷土芸能祭は北緯40° ナニャトヤラ連邦郷土芸能交流祭と併催だったことにより、例年より多くの参加者があり、広く郷土芸能を理解してもらう機会となった。 [今後の方向性等] - 郷土芸能祭の開催支援や各種イベント出演情報の提供を行う。

項目	②芸術文化に親しむ機会の充実 【生涯学習課】	
目 的	令和5年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
優れた芸術文化の鑑賞の機会を提供するため、舞台や音楽などの鑑賞事業を開催	[継続] ■芸術鑑賞事業の実施 《自主文化事業の開催》 ・小中学生を対象とした映画鑑賞（学校鑑賞事業）や一般等を対象とした演劇、ロビーコンサートを実施した。 ・浄法寺文化交流センターでは、一般を対象とした吹奏楽団・合唱団のジョイントコンサートや民謡発表会を実施した。 【数値目標】 ・芸術鑑賞事業入場者数(人) R3 : 6,300 R7 : 5,900 (R5達成率 110.8%)	◎評価 【 A 】 ・バラエティに富んだ自主文化事業を実施したことにより、芸術文化に親しむ機会を提供することができた。 [今後の方向性等] ・子どもから大人まで、市民が優れた芸術文化を鑑賞する機会の提供に努める。 【数値目標の実績】 ・芸術鑑賞事業入場者数(人) R5 : 8,937 (R4実績値 7,410)
芸術文化に触れる機会と展示会などの発表の場を提供	[継続] ■芸術文化の発表の場の提供 ・芸術文化活動の発表の場として、文化会館のエントランスやシビックセンターの市民ホールを展示に活用できる案内や市民参加型事業の紹介を行った。	◎評価 【 A 】 ・市内芸術文化団体へ芸術文化の発表の場の提供を行うことができた。 [今後の方向性等] ・気軽に芸術文化に親しみ参加できる機会の創出を図りながら、市民の芸術文化活動の発表の場の提供に努める。
項目	③文化施設の整備・充実 【生涯学習課】	
目 的	令和5年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
芸術文化の拠点施設の維持管理	[継続] ■市民文化会館リフレッシュ事業 大ホール照明器具改修工事 3階トイレ改修工事 空調用ボイラー自動制御設備修繕工事 ■浄法寺文化交流センターリフレッシュ事業 空調設備修繕	◎評価 【 A 】 ・計画に基づき改修工事や修繕を実施したことにより、利用者の安全性を確保できた。 [今後の方向性等] ・特殊建築物定期検査及び施設の改修を進め、利用しやすい環境づくりに努める。
魅力ある自主事業の開催、芸術文化に対する多様なニーズの把握と情報発信	[継続] ■魅力ある自主事業の開催と情報発信 ・市民が気軽に参加し、芸術文化に親しむことができる市民参加型事業を開催した。また、広報にのへ等を活用し、催事について情報発信した。 スプリングフェスティバル ロビーコンサート チャレンジ・ミニコンサート わくわくピアノコンサート 秋のアートフェスタ ニューイヤーミュージカルフェスティバル つるし雛まつり展	◎評価 【 A 】 ・市民が芸術文化事業に気軽に参加する機会を提供することができた。 ・広報にのへやカシオペアFMなどの複数媒体を活用し情報発信することにより、市民の参加を促すことができた。 [今後の方向性等] ・参加者からのアンケートを参考に更に魅力的な自主事業を開催する。

施策 (2) 文化財の保護と活用		
項目	①史跡九戸城跡の保護と活用 【文化財課】	
目 的	令和5年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
史跡九戸城跡指定地の公有化	[継続] ■史跡九戸城跡土地買上事業 史跡九戸城跡の公有化対象地2筆(851㎡)の公有化を実施した。 公有化計画総面積 200,810.18㎡ 公有化済面積 186,021.14㎡ 公有化率 92.63%	◎評価 【 A 】 - 令和5年度当初に予定していた公有化をすべて完了した。 [今後の方向性等] - 追加指定された在府小路地区も含め、公有化対象地の地権者の意向確認し、計画的に買上を進める。
史跡九戸城跡の歴史公園整備	[継続] ■史跡九戸城跡環境整備事業 - 史跡九戸城跡の第2期整備実施設計(搦手地区)を策定した。 - 二の丸地区の整備工事を実施した。 - 整備指導委員会を開催した。(2回) 《協議内容》 第2期整備実施設計 発掘調査の検討(石沢館) 【数値目標】 - 史跡九戸城跡第2期整備事業進捗率(%) R3: 18 R7: 100 (R5達成率 59.0%)	◎評価 【 B 】 - 実施設計は完了したが、整備工事は史跡保護の観点から工法変更が生じ、繰越をした。 - 整備指導委員会を開催し、適切な史跡の保護、活用の方向性を確認した。 [今後の方向性等] - 第2次整備基本計画に基づき、整備指導委員会の指導のもと、計画的に史跡整備を進めていく。 【数値目標の実績】 - 史跡九戸城跡第2期整備事業進捗率(%) R5: 59 (R4実績値 44)
史跡九戸城跡の保護、活用	[継続] ■史跡九戸城跡保護活用事業 - 南部「御城印」プロジェクトに伴う御城印を販売した。 - 九戸城を活かす会へ補助金を交付した。 ■九戸城情報発信・活用事業 - 史跡九戸城跡パンフレットの増刷等により、情報発信を行った。 ■史跡施設等維持管理事業 - 地元町内会等の協力を得て、九戸城跡等の適切な維持管理に努めた。 史跡九戸城跡維持管理業務委託 九戸城跡ガイドハウス窓口業務委託 【数値目標】 - 史跡九戸城跡年間来訪者数(人) R3: 8,500 R7: 8,500 (R5達成率 67.9%)	◎評価 【 B 】 - パンフレットの配布、御城印の販売、続日本100名城スタンプなどにより、九戸城跡の認知度は向上しているが、九戸城跡への来訪者数は減少した。 [今後の方向性等] - 引き続き、環境整備事業と併せて適切な保護、活用に努め、九戸城跡の認知度の向上に努める。 【数値目標の実績】 - 史跡九戸城跡年間来訪者数(人) R5: 5,779 (R4実績値 6,197)

項目	②その他の文化財の保護と活用 【文化財課】	
目 的	令和5年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
文化財等の保護・活用	[継続] ■文化財保護事業 ・二戸市文化財調査委員会議の開催（3回） ・「折爪岳のヒメボタル生息地」保存活用計画の策定検討 ・市指定有形文化財の指定解除（3件） （参り仏掛け軸、桂、エドヒガン桜）	◎評価 【 A 】 ・文化財調査委員会議を開催したほか、指定候補文化財調査を実施し、適切に文化財の保護、活用を図った。 ・市指定文化財3件を指定解除した。 [今後の方向性等] ・「折爪岳のヒメボタル生息地」保存活用計画策定を進め、折爪岳振興協議会とともに適切な保護に努める。 ・市指定文化財と指定候補案件の調査は引き続き実施し、今後は未指定文化財の調査も計画する。
埋蔵文化財包蔵地の保護	[継続] ■埋蔵文化財発掘調査事業 ・市内遺跡発掘調査事業を実施した。 ○個人住宅 中曽根遺跡、橋場遺跡、上里遺跡（石切所館）（計3件） ○史跡調査 史跡九戸城跡：石沢館他（1件） ○民間開発 なし ○公共事業 晴山遺跡第49・50次調査、枋ノ木遺跡、前小路遺跡（計3件） ○現地説明会 史跡九戸城跡 45人	◎評価 【 A 】 ・円滑かつ適切に発掘調査を実施し、埋蔵文化財包蔵地の記録保存を行うことができた。 ・現地説明会や発掘調査報告会等を開催し、発掘調査及び遺跡の価値等について、理解度を深めることができた。 [今後の方向性等] ・今後も適切な調査に努め、現地説明会や発掘調査報告会等を引き続き実施する。
文化財保護の普及	[継続] ■埋蔵文化財保存活用事業 ・体験学習の開催 「土偶ランタンづくり」 参加者 10人 「埋蔵文化財センター探検隊」 参加者 3人 ・スポット展示の開催 「二戸のみなさん、こんにちは！-中曽根遺跡令和に出土した古代の遺物たち-」 ・発掘調査報告会の開催 - 講 演 「火山灰から考える古代の二戸」 - 報 告 晴山遺跡、史跡九戸城跡、前小路遺跡、橋場遺跡、上里遺跡、中曽根遺跡、枋ノ木遺跡 - 参加者 80人 ・史跡九戸城跡フィールドワーク 「城郭研究家神山さんが案内する九戸城散策」 参加者 35人 【数値目標】 ・埋蔵文化財センター入館者数(人) - R3：1,000 - R7：1,000 （R5達成率 161.3%）	◎評価 【 A 】 ・体験学習を通じて、参加者に埋蔵文化財について理解を深めることができた。 ・スポット展示を実施することにより、発掘調査成果を市民に対して効果的に公開することができた。 ・フィールドワークを開催し、地域の歴史の理解を深めることができた。 [今後の方向性等] ・調査報告会の開催、体験学習の企画、企画展の開催など埋蔵文化財の活用を推進する。 【数値目標の実績】 ・埋蔵文化財センター入館者数(人) - R5：1,613 （R4実績値 1,456）

施策 (3) 郷土への誇りと愛着を深める地域文化の継承		
項目	①歴史民俗資料の活用 【文化財課】	
目 的	令和5年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
歴史民俗資料の収集、保存、調査	[継続] ■歴史民俗資料の収集、調査 ・民俗資料等の収集、調査研究、各種照会への対応を行った。	◎評価 【 A 】 ・民俗資料の収集、調査研究を進めることができた。 [今後の方向性等] ・市民等に郷土史の理解を深めてもらうため、引き続き、民俗資料等の収集と調査研究を進める。
歴史民俗資料の効果的な保存・活用を目指し、施設環境の整備に取り組む	[継続] ■資料館、収蔵庫の環境整備 ・漆の郷づくり推進課と連携し、重要文化財収蔵庫の整備の方向性について検討し、文化庁と事前協議を行った。	◎評価 【 B 】 ・重要文化財収蔵庫の環境整備において、基本的な整備手法について検討し、文化庁、岩手県教育委員会との協議を行った。 [今後の方向性等] ・重要文化財収蔵庫の効果的な保存・活用ができるように漆の郷づくり推進課と整備を進めるとともに、両資料館の管理運営について検討する。
歴史民俗資料を活用し、市民等に郷土史学習の機会を提供する	[継続] ■資料館、収蔵庫の活用 ・資料館、収蔵庫で保管している民俗資料等を活用し、企画展を開催した。 ○二戸 二戸市文化祭特別展 「二戸に鉄道が敷かれた時代」 ○浄法寺 ミニ企画展 「浄法寺の漆とゆかりのひとびと」 【数値目標】 ・二戸歴史民俗資料館入館者数(人) R3 : 1,000 R7 : 1,000 (R5達成率 68.8%) ・浄法寺歴史民俗資料館入館者数(人) R3 : 800 R7 : 800 (R5達成率 119.1%)	◎評価 【 B 】 ・歴史民俗資料館の入館者は、目標値に対し二戸は達成に至らなかったが、浄法寺は達成することできた。 ・特別展・企画展の開催により、参加者に郷土史の理解を深めてもらうことができた。 [今後の方向性等] ・引き続き、多くの人が資料館を活用できるよう、講座や企画展を開催していく。 【数値目標の実績】 ・二戸歴史民俗資料館入館者数(人) R5 : 688 (R4実績値 458) ・浄法寺歴史民俗資料館入館者数(人) R5 : 953 (R4実績値 729)
項目	②市史編さん事業の推進 【生涯学習課】	
目 的	令和5年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
市に関する史料の調査研究をしながら史実をまとめ、二戸市史を刊行し、市民への周知を図る	[継続] ■史料叢書の継続発刊 ・史料叢書第二十四集「藩政期の二戸 福岡 浄法寺7」を発刊した。 ■ホームページ等を活用した市史の紹介 ・発刊されている市史をホームページで内容を紹介している。また、昨年度に発刊した史料叢書第二十三集「藩政期の二戸 福岡 浄法寺6」については広報にのへを活用し、周知した。	◎評価 【 A 】 ・書籍発刊をホームページや広報にのへにより周知したほか、市史編さん専門員によるカシオペアFMの出前講座においても史料叢書を紹介できた。 [今後の方向性等] ・市内に現存する史料は多数あり、継続して史料の読解整理を進め、史料叢書等にまとめる。 ・広報にのへ、ホームページのほか、出前講座等を活用し、市史の紹介を継続する。

分野4 スポーツの推進

施策（１）ライフステージに応じたスポーツ活動の推進		
項目	①生涯スポーツと健康づくりの推進【生涯学習課】	
目 的	令和５年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
市民がそれぞれのライフステージでスポーツを楽しめる活動の場の提供を図る	[継続] ■各種スポーツ大会、教室の開催 ・市体育協会や体力づくり振興会等と連携し、大会や教室を開催した。 市民総参加スポーツ大会173人 市内少年野球大会4チーム ナイタースポーツ43人 柔道・剣道教室65人 ニュースポーツ交流大会83人 体力づくり野球大会281人 水中運動教室44回617人 市民水泳大会60人 市内スキー選手権大会16人 体力テスト49人	◎評価【 A 】 ・関係団体と協議のうえ、7つの大会等を開催。市民のライフステージに応じたスポーツ活動の機会を提供できた。 [今後の方向性等] ・安全に、ライフステージに応じたスポーツ活動ができる機会の提供に努める。
各種大会の開催情報、結果情報を発信し、スポーツに対する意識の高揚に努める	[継続] ■「広報にのへ」やホームページ等を活用した情報提供 ・市体育協会をはじめ、各競技団体と連携を図り各種大会の開催や実施結果の報告を受ける方式に変更し、広報にのへやホームページにより周知を図った。（お知らせ号へ毎月掲載）	◎評価【 A 】 ・各競技団体等へ掲載の呼びかけを行ったことにより、これまで掲載できていなかった団体からの掲載依頼を受けることができた。 [今後の方向性等] ・より多くの情報提供が得られるよう、関係団体への周知を図り、スポーツに対する意識の高揚に努める。
項目	②地域のスポーツ環境の整備【生涯学習課・教育企画課】	
目 的	令和５年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
市民が主体的にスポーツ活動に取り組むことができるよう、学校体育施設を開放し環境整備に努める	[継続] ■学校体育施設開放事業 ・学校の体育施設を開放することにより、スポーツ活動に取り組みやすい環境づくりに努めた。 《利用実績》 利用申込団体数19団体 利用施設数8施設 利用延べ回数366回 利用者延べ人数4,123人 【数値目標】 ・学校開放事業の利用の割合 (利用延べ人数/市の人口 %) R3：20.0 R7：20.0 (R5達成率 84.5%)	◎評価【 A 】 ・学校体育施設を開放したことにより、市民がスポーツ・レクリエーションに親しむ機会を提供できた。 [今後の方向性等] ・引き続き、市民がスポーツやレクリエーションに親しむことができるよう、学校体育施設を開放し、環境整備に努める。 【数値目標の実績】 ・学校開放事業の利用の割合 (利用延べ人数/市の人口 %) R5：16.9 (R4実績値 16.1)

分野 4 スポーツの推進

目 的	令和5年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
スポーツ振興を図るため、各種スポーツ団体や指導者の育成について支援を行う	[継続] ■各種スポーツ団体及び指導者の育成 - 各種スポーツ団体の活動に対し、補助金支援のほか、スポーツ指導者向け研修会を開催した。 《補助金》 市体育協会補助金 市スポーツ少年団補助金 市体力づくり振興会補助金 浄法寺地区体育祭実行委員会補助金 スポーツ交流事業補助金 《研修会》 スポーツ少年団指導者研修会 ■スポーツ推進委員の活動機会の拡充 - 市スポーツ推進委員協議会では、コロナ対策を徹底し、スポーツイベントを運営した。 《運営（従事）事業》 ニュースポーツ交流大会（シャフルボード） 市民総参加スポーツ大会（シャフルボード） 指導者派遣（カラーリング） 二戸地区生涯スポーツ交流会（なぎなた） 【数値目標】 - 市登録スポーツ少年団指導者数の割合（指導者数/団員数 %） R3：21.0 R7：21.0 （R5達成率 79.5%）	◎評価 【 B 】 - 補助金支援により各種スポーツ団体の育成支援が図られたほか、指導者研修の実施によりスポーツ振興を進める上での指導者育成が図られた。 - スポーツ推進委員のニュースポーツへの参加機会の確保と研修によりスポーツを支える人材育成が図られた。 [今後の方向性等] - 各種スポーツ団体及び指導者の育成について支援を継続し、スポーツ振興が図られるよう努める。 【数値目標の実績】 - 市登録スポーツ少年団指導者数の割合（指導者数/団員数 %） R5：16.7 （R4実績値 15.8）
項目	③多種・多様なスポーツ団体の育成 【教育企画課・生涯学習課】	
目 的	令和5年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
児童生徒の文化・体育活動を支援する	[継続] ■小中学校文化・体育大会出場費補助事業 小学校（1団体2大会）と中学校（3団体29大会）とスポーツ少年団等（16団体・個人26大会）に対し、大会出場に必要な経費の一部を補助した。	◎評価 【 A 】 - 県大会以上へ勝ち進んだ団体等へ補助することによって、経済的負担軽減と文化・体育活動の振興につながった。 [今後の方向性等] - 引き続き、学校や各競技団体へ制度の周知を図りながら、大会出場等に係る支援を行う。
活動を支援するため、各種団体等と連携に努め、選手の育成と競技力向上を図る	[継続] ■各種大会開催補助事業 3団体に対し、県大会以上の大会開催に係る経費の一部を補助した。 学童軟式野球大会新人大会岩手県大会補助金 東北総合体育大会剣道競技補助金 北奥青少年柔道大会補助金	◎評価 【 A 】 - 申請のあった3団体に対し、大会開催に係る経費の一部を補助することにより、大会開催の支援を図るとともに、地元でのレベルの高い大会の開催により競技力の向上を図った。 [今後の方向性等] - 引き続き、各競技団体と連携を図りながら、大会運営に係る支援を行う。

施策 (2) 体育施設の環境整備		
項目 ①体育施設の整備・充実 【生涯学習課】		
目 的	令和5年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
継続的にスポーツ活動に取り組むことができるよう体育施設の環境整備に努める	[継続] ■体育施設の運動機器の修繕・更新 ■体育施設の整備・改修 ・大平球場トイレ改修工事 ・大平球場ソフトボール移動式簡易外野フェンス整備	◎評価 【 A 】 ・施設修繕等により、市民が安心して利用できる環境整備が図られた。 [今後の方向性等] ・老朽化している施設が多くなってきていることから、各施設の点検を行い、より安全に利用できる環境整備に努める。